

第30回高知県オフセット・クレジット認証運営委員会 委員からの主なご意見等と事務局の回答

1. 経過報告(議事概要及び資料1)

【委員からの意見・質問】

- ・令和5年度の県有クレジット活用実績は前年度と比べて大きく落ち込んでいますが、これは資料作成時(年度途中)のものでしょうか。地域版クレジットも合わせて、来年度も引き続き公共工事の施工業者への周知や環境先進企業への営業活動、制度の普及啓発に取り組んでいただくようお願いいたします。
- ・県有クレジットは、公共工事の施工事業者に対する営業活動が中心のため、公共工事の発注量減少に伴い、クレジット販売量も減少したという理解でよろしいでしょうか。

【事務局からの回答】

令和5年度は公共工事の発注量減少により、主な販売源である公共工事の販売量は減少しておりますが、報告時(令和5年12月末)から3月現在にかけて販売量は600t-CO₂まで伸びており、昨年度の販売量を上回っております。今年度は、イベントや商品でのクレジット利用の割合が増加しております。

【委員からの意見・質問】

- ・地域版クレジットは、プロバイダーの活用、及び各プロジェクト事業者とのつながりのある企業からの発注、の二つが中心であったと記憶していますが、大豊町のクレジットを購入されたSBパワーは大豊町と何らかのつながりが以前からあったということでしょうか。

【事務局からの回答】

SBパワー株式会社と大豊町のクレジット売買契約は、オフセットプロバイダーであるカルネコ株式会社を仲介としたものです。SBパワー株式会社が取り組む「自然でんき」(顧客が選択した森林保全団体に対して収益の一部から毎月50円を支援する取り組み)の支援先として大豊町のプロジェクトが登録されております。

2. 永続性確認結果・森林管理プロジェクトに係る特別措置について(資料2)

- ・登録された事業者から提出された文書、書類等に不備がなく、対象森林に異常がないことについて確認されており、意見等はなし。

3. 高知県版J-クレジット制度変更・更新について(資料3)

- ・内容は適切に処理されており、意見等はなし。

4. 高知県版J-クレジット制度制度文書の改定について(資料4)

【委員からの意見・質問】

- ・別紙7の右下、「プロジェクト実施後」の説明文にある「(再造林を行った場合には標準伐期...計上可)」のところで、施業には様々なケースが存在しますし、地位で

も変化しますし、造林回数が重なれば以前の地位より低下するかとも思いますし、もちろん苗木性能の変化でも異なってくると思いますので、どう計上するのか、が良くわかりません。また、途中の間伐時などはどう処理するのでしょうか？

【事務局からの回答】

ご指摘いただいております通り、森林施業には様々のケースがございます。また、CO₂ 吸収量算定においては「地位」のパラメーターは大変重要となってきます。高知県版制度は国制度に準拠する形で制度設計しており、CO₂ 吸収量算定については国制度文書を基準にしております。「モニタリング・算定規程(森林管理プロジェクト用)」には、地位の特定として、「プロジェクト実施地の地位は、基本的に変化することはないため、プロジェクト開始後、1 回目のモニタリングで特定した後、2 回目以降のモニタリングでの地位を特定する作業を省略することができる。(同一モニタリングエリアの場合)」と記載しておりますので、その様に運用しております。

また、実際には苗木性能の変化でも CO₂ 吸収量に影響があるかもしれませんが、国制度事務局に問い合わせを行ったところ、下記のように回答いただいております。

【国制度事務局からの回答】

吸収量の算定方法は、下記 URL 資料の 15 頁に図示されています。

https://japancredit.go.jp/data/pdf/credit_005.pdf

育成林の吸収量の算定は、適切に施業管理されている林分の面積(施業面積)に、適切に施業管理されている林分の標準的な幹材積成長量(樹種別×地位別の収穫予想表から引用・算定)を乗じるところから始まります。つまり、施業の種類、造林回数、苗木性能の変化、間伐期かどうかに関わらず、適切に施業管理されている林分の平均的な像(ただし地位別)を想定し、そうした林分における(林齢に応じた)標準的な成長量から、吸収量を算定します。個々の対象林分の実態に即した厳密な算定とはなっておりませんが、フィージビリティに鑑みて、このような算定方法が採られています。

5.その他ご意見

【委員からの意見・質問】

- ・今後、カーボンプライシングの導入など J-クレジット制度を取り巻く環境は大きく変化することが予想されます。状況を注視し、必要に応じて柔軟な対応がなされるようお願いいたします。
- ・社会的には企業の皆さんのクレジットの活用、特に吸収・除去のクレジットへの関心や重要性が高まっていると思いますので、高知県クレジットについても活用の機会を増やすことが出来ればと思っております。